

Q 病院で感染性の病気と診断されました。どうすればよいですか？

A 出席停止になる病気と、ならない病気があります。

インフルエンザ以外の出席停止の対象となる感染症だった場合、病気が治ったら、医師の許可を得てから登校してください。

インフルエンザの場合、治癒証明のための受診と治癒証明書の提出は必要ありませんが、インフルエンザ経過報告書を提出してください。

どちらの場合も欠席扱いにはなりません。

→出席停止対象となる感染症は、下記の資料で確認してください。

→治癒証明を前もって提出する必要はありません。登校する時に提出してください。

→インフルエンザ以外の感染症の場合は治癒証明書を提出してください。

→インフルエンザと診断され休養後登校する場合は、「インフルエンザ経過報告書」を提出してください。用紙は受診した医療機関で受け取るか、本校のホームページよりダウンロードしてご利用ください。

→後から出席停止対象の感染症であると分かって、欠席をさかのぼって出席停止になります。

→遅刻・早退になりません。

- ・早退した後、出席停止対象の感染症と診断された場合。
- ・「治癒証明書」をもらうために医療機関へ寄ってから登校した場合。



参考資料

学校で予防すべき感染症（学校保健安全法19条）

第1類：発生はまれだが重大な感染症

感染症名	出席停止期間
エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群(SARSコロナウイルス性のもの)、鳥インフルエンザ(H5N1型)、新型インフルエンザ	発症から、治癒するまで。(入院治療が必要)

第2類：放置すれば学校で流行が広がってしまう可能性がある飛沫感染する学齢期の主要な感染症

病名	おもな症状	感染経路	潜伏期	感染期間	出席停止期間	備考
インフルエンザ	高熱(39~40℃) 関節や筋肉の痛み 全身倦怠感 咳、鼻水 のどの痛み	気道 接触 飛沫	1~4日	発熱後 3~4日	発症から5日を 経過し、かつ、 解熱した後2日 を経過するま で	肺炎や脳炎など の合併症に注意 発熱や意識の様 子に気をつける
百日咳	コンコンという短く激 しい咳が続く	飛沫 気道	5~21日	1~4週間	特有の咳が出 なくなるまで	乳幼児は肺炎の 合併に注意

					または、5日間の適正な抗菌薬治療が終了するまで	
麻疹 (はしか)	発熱、鼻汁 目やに 発疹、くしゃみ	飛沫 気道 接触	7~18日	発疹の出る前 5日 ~ 出た後3, 4日	熱が下がって 3日を経過す ぎるまで	
流行性 耳下腺炎 (おたふくかぜ)	発熱 耳の前下部の腫れと 痛み(押すと痛む)	飛沫	2~3週	耳下腺の腫れる 前7日 ~ 腫れた後9日間	耳下腺、顎下 腺または舌下 腺の腫脹が始 まった後5日を 経過し、かつ全 身症状が良好 となるまで	思春期以後の感 染では、睾丸 炎、卵巣炎の合 併に注意。
風疹 (三日ばしか)	38℃前後の発熱 発疹 リンパ節の腫れ	飛沫 気道	2~3週	発疹の出る前7日 ~ 出た後7日間	発疹の全てが 消失するまで	妊娠初期の感染 は奇形児出産率 が高い。
水痘 (水ぼうそう)	発疹 → 水泡 →かさぶた 軽い発熱	飛沫 気道 接触	10~21日	発疹が出る前 1日 ~ 全ての発疹がかさ ぶたになるまで	全ての発疹が かさぶたになる まで	
咽頭結膜熱 (プール熱)	38~40℃の発熱 のどの痛み 目やに 結膜の充血	気道 接触 (結膜)	2~14日	発病してから 2~4週間	主な症状がなく なった後2日を 経過するまで	医師の許可があ るまで、プール 不可
結核	(初期の症状として) 発熱、咳、疲労感 食欲不振 など	飛沫 経口 接触	感染しても 臨床症状出 現は一樣で はない	一樣ではない	病状により医師 が感染のおそ れがないと認 めるまで	感染が強く疑わ れれば発病予防 のために、化学 療法剤の服薬を 行う
髄膜炎菌性 髄膜炎	高熱、痙攣、頭痛、 嘔吐、点状出血斑 など	飛沫	3~4日			適切な抗菌薬治 療をできるだけ 早期に開始する 必要がある

第3類：飛沫感染が主体ではないが、放置すれば学校で流行が広がってしまう可能性がある感染症

病名	おもな症状	感染経路	潜伏期	感染期間	出席停止期間	備考
腸管出血性 大腸菌感染症 (O-157)	激しい腹痛 水様性の下痢 血便	経口	10時間 ~8日		発症から、医師	溶血性尿毒症 症候群などの合 併症に注意

					により伝染のお それがないと 認められるまで	医師の許可があ るまで、プール 不可
流行性 角結膜炎	目の異物感、目やに 充血 まぶたの腫れ 瞳孔に点状の濁り	接 触	2～14日	発症の3日前 ～治癒まで (約2週間)		
急性出血性 結膜炎 (アポロ病)	目の激しい痛み 結膜が赤くなる 異物感、涙が出る	接 触	1～3日	発病してから 5～7日間	発症から、医師	医師の許可があ るまで、プール 不可
コレラ	嘔吐 米研汁様下痢	経口	2～3日		により伝染のお それがないと 認められるまで	海外から帰国後 の下痢・発熱に 注意
細菌性赤痢	発熱 水溶性下痢	経口	1～3日			
腸チフス	高熱	経口	7～21日			
パラチフス	発熱 脾腫		10～14日			
※ マイコプラズ 肺炎	頑固な咳 発熱・痰 のどの痛み	飛沫	2～3週間	呼吸器症状の 強い間	急性期が終わ り全身状態が 回復するまで	
※ 感染性胃腸炎 (ノロ・ロタウイ ルス等)	嘔吐 下痢 発熱 腹痛	経口	1～2日	患者の糞便か らは回復後3 ～7日まで	下痢・嘔吐症状 が消失し全身 状態が回復す るまで	汚染された食べ 物・患者の嘔吐 物に注意
※ ヘルパンギー ナ	高熱 咽頭の水泡	飛沫 経口	2～7日	急性期 便からは2～4 週	咽頭・口腔の水 泡が改善し、発 熱がなく全身症 状が改善する まで	
※ 手 足 口 病	軽い発熱(2～3日) 小さな水泡が口の 中、手足にできる	飛 沫 経 口 接 触	3～5日	のどから 1～2週間 便から 3～4週間		
※ ウイルス性 肝炎	ウイルスの型により異なる				医師により伝 染のおそれが ないと認められ るまで	キャリアは出席 停止とはならな い
※ 溶連菌感染症	発熱 咳 のどの痛 み 倦怠感 頭痛 食欲不振 腹痛	飛沫	2～4日	高熱の期間	適切な抗生剤 治療がなされ 24時間を経て 全身症状が回 復するまで	急性腎炎・リウ マチ熱等の合併 症に注意
※ 伝 染 性 紅 斑 (リンゴ病)	両ほおに少し盛り上 がったじんましん様 の発疹 発熱	飛 沫	7～14日	(症状出現後 は感染力が弱 い)	全身症状が良 い者は登校可	妊婦は感染しな いよう、流行期 には注意が必要
※ 伝染性膿痂疹 (とびひ)	顔や手に 米粒～豆大の水泡 →破れて膿が出る かゆみ	接 触 (水ほう の分泌 物)	2～5日	水泡から膿の 出る間	登校可 (直接接触しな いよう病巣を覆 うこと)	医師の許可があ るまでプール 不可

※印の感染症:3類の中でも「その他の感染症」とされ、条件によっては出席停止の措置が必要と考えられるもの。